

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2012年第19週
(5月7日～5月13日)

- * 2012年5月16日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2012年4月)の疾患及び感染症豆知識
「手足口病」も掲載しています。

平成24(2012)年5月17日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2012年19週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	83	103	60	74	1,600	384	9,945
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢		2	2	5	31	8	94
	腸管出血性大腸菌感染症	3	1	3	2	21	23	264
	腸チフス					4	1	11
	パラチフス					4		9
四類	E型肝炎	1			1	9	1	55
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1				7	6	64
	エキノコックス症							5
	黄熱							
	オウム病							3
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
	つつが虫病					1	13	79
	デング熱	1				12	1	47
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	7
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
ボツリヌス症							2	
マラリア	1		2		7	1	23	
野兎病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症				2	16	15	220	
レプトスピラ症					2		3	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		16週	17週	18週	19週	年累計	19週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	6	2	1	61	8	278
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)				1	16	2	74
	急性脳炎 *2				1	15	3	182
	クリプトスポリジウム症	1				2		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1	6	4	62
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					8	1	109
	後天性免疫不全症候群	8	9	3	8	150	12	452
	ジアルジア症	1				4	1	16
	髄膜炎菌性髄膜炎							6
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	7	1	6	101	15	279
	破傷風					1		28
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					4		26
	風しん	1	3	2	3	26	10	168
麻しん					17	4	113	
2012/5/16集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 74件 肺結核 34件、その他の結核 11件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 21件、疑似症患者 7件、年齢は10歳未満 3件(うち5歳未満 2件)、10代 1件、20代 9件、30代 7件、40代 8件、50代 8件、60代 14件、70代 13件、80代 9件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 72件、韓国 1件、中国 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 5件 患者 5件、年齢は20代 2件、30代 1件、40代 2件、菌種はソルネ 5件、推定感染地はインドネシア 4件、インド 1件、推定感染経路は経口感染 5件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 2件 患者 2件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 1件、O157 VT2 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地は国内(東京都) 2件、推定感染経路は経口感染 2件であった。2件とも牛肉の喫食歴あり。O157 VT2の事例は、17週、18週で届出のあった2事例と同一の飲食店で焼肉の喫食歴あり。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。

レジオネラ症 2件 肺炎型 2件、年齢は40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は水系感染(銭湯) 1件、その他(不明) 1件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管及び腸管外、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(性別不明)であった。

ウイルス性肝炎 1件 C型、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間)であった。

急性脳炎 1件 病原体は不明、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 1件 古典型CJD、年齢は60代であった。

後天性免疫不全症候群 8件 無症候キャリア 8件、年齢は20代 2件、30代 5件、50代 1件、推定感染地は国内 7件、不明 1件、推定感染経路は性的接触(同性間) 7件、不明 1件であった。1件は梅毒との重複感染を認めている。

梅毒 6件 早期顕症梅毒Ⅱ期 4件、無症候梅毒 2件、年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、推定感染地は国内 5件、国内またはアイルランド 1件、推定感染経路は性的接触(同性間) 5件、その他(不明) 1件であった。

風しん 3件 臨床診断例 2件、検査診断例 1件、年齢は20代 1件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、接触感染 1件、風しん含有ワクチン接種歴は接種なし 1件、不明 2件であった。臨床診断例の1件は医療従事者で、17週に届出のあった患者との接触歴が認められている。

※ 第16週で報告のあった、〔五類〕麻しん 1件は削除された。

定点把握対象疾患 報告数 2012年19週

定点種別	対象疾患	2012年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		16週	17週	18週	19週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	43	35	17	18	0.07	263	264
	咽頭結膜熱	55	78	39	123	0.47		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	585	613	285	641	2.44		
	感染性胃腸炎	3,487	3,279	1,290	2,135	8.12		
	水痘	212	235	114	358	1.36		
	手足口病	11	22	28	31	0.12		
	伝染性紅斑	24	27	28	41	0.16		
	突発性発しん	158	169	97	207	0.79		
	百日咳	4	5	4	8	0.03		
	ヘルパンギーナ	5	4	4	10	0.04		
	流行性耳下腺炎	42	50	31	82	0.31		
	川崎病(注1)	4	3	1	3	0.01		
	不明発しん症(注1)	14	24	7	20	0.08		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	1,284	809	197	147	0.35	418	419
眼科	急性出血性結膜炎		1	1			38	39
	流行性角結膜炎	14	25	37	58	1.53		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)		1				25	25
	無菌性髄膜炎		1		2	0.08		
	マイコプラズマ肺炎	27	17	17	14	0.56		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		1					
	インフルエンザ入院(注4)	9	7	1	1	0.04		

2012/5/17集計

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は増加したが、多くは多摩小平からの報告である。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

港区

- ・ 感染性胃腸炎20名中、ロタウイルス 1名。

台東区

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と咽頭結膜熱の同時感染の2歳児 1名。

墨田区

- ・ 感染性胃腸炎はロタウイルス 1名。
- ・ 溶連菌感染症5名中3名は兄弟。5名は同じ小学校です。

世田谷区

- ・ 感染性胃腸炎8名中、ロタウイルス 3名。
- ・ マイコプラズマ肺炎 1名(胸部X線診断)、アデノウイルス迅速キット陽性 1名。
- ・ 溶連菌感染症が増加しています。

豊島区

- ・ 感染性胃腸炎5名中、ロタウイルス 1名(5歳児)。

荒川区

- ・ 感染性胃腸炎24名中、ロタウイルス 3名、ノロウイルス 2名。流行性耳下腺炎が流行し始めました。
- ・ 感染性胃腸炎10名中、病原性大腸菌O1、O18 各1名。

板橋区

- ・ 感染性胃腸炎8名中、ロタウイルス 2名、病原性大腸菌O1、O18 各1名。

八王子市

- ・ 感染性胃腸炎47名中、ロタウイルス 3名(5ヶ月、8ヶ月、4歳児 各1名)、アデノウイルス 5名(1歳児 3名、2歳児 2名)。
- ・ 感染性胃腸炎5名中、アデノウイルス 1名(0歳児)。

多摩小平

- ・ 感染性胃腸炎11名中、ロタウイルス 3名。
- ・ 感染性胃腸炎22名中、ロタウイルス 1名、病原性大腸菌 18名、アデノウイルス 3名。

※ インフルエンザの迅速診断結果及びコメントは14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2012年19週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～6か月	3	1		20	3			9	1	
～1歳	3	4	2	203	18	3	2	87	1	
1歳	8	34	21	320	50	9	4	88	1	6
2歳	4	21	21	237	56	5	5	13		1
3歳		22	70	234	68	4	3	5		
4歳		7	69	190	56	4	5	4		1
5歳		10	95	154	26	1	6	1		
6歳		6	89	112	31	1	7			
7歳		5	70	95	18		3			1
8歳		2	54	84	11	1	4			
9歳		2	34	72	6	2			1	
10～14歳		3	84	182	13		1			
15～19歳		2	7	36						
20～29歳		4	25	196	2	1	1		4	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	18	123	641	2,135	358	31	41	207	8	10
先週比	1	84	356	845	244	3	13	110	4	6

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～6か月			1	1		
～1歳			3	1		1
1歳	1	1	6	1		1
2歳	11	1	6	9		
3歳	3		1	3		3
4歳	13	1		5		1
5歳	10		1	17		
6歳	10			5		1
7歳	6		1	8		
8歳	6			2		2
9歳	10			8		
10～14歳	10			12		2
15～19歳	2			12		
20～29歳			1	16		2
30～39歳				21		18
40～49歳				14		8
50～59歳				4		3
60～69歳				6		4
70～79歳						12
80歳以上				2		
合計	82	3	20	147		58
先週比	51	2	13	-50	-1	21

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2012年19週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳	1	
30～39歳	1	
40～49歳	1	
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	3	

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2012年19週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				1	2			1		
中央区			2	9				3		
みなと	1	7	6	36	18	6		4	2	
新宿区			23	35	3	1		2		1
文京		4	4	21	7	1		1		
台東	1	1	4	37	2			4		
墨田区			14	29	4			4		
江東区	3	9	11	136	10	2	6	9		
品川区		2	10	75	4			7		1
目黒区		2	16	11						
大田区	2	18	59	163	8		1	13	1	
世田谷		2	58	121	10	1	6	11	2	
渋谷区				30	8			1		
中野区			9	48	5		1	1		
杉並	1		22	57	11			7		
池袋			2	17	2					
北区			11	36	2			9		
荒川区		4	9	63	11			6		1
板橋区		2	4	30	11		1	8		
練馬区		9	41	75	11			13	1	1
足立	1	5	28	119	28	1	3	6		
葛飾区		1	9	78	16	3	1	4		
江戸川		13	17	107	8	3	2	6		1
八王子市	1	18	75	158	30		1	7		
町田市		1	38	111	16		4	12		1
西多摩		7	16	41	8	1	4	2		
南多摩		3	27	98	42	2	1	9		
多摩立川	1		24	106	18	4	1	13		
多摩府中	1	4	52	147	29	5	8	21	2	4
多摩小平	6	11	50	140	34	1	1	23		
島しょ										
東京都合計	18	123	641	2,135	358	31	41	207	8	10

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2012年19週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	2			1		
みなと	1			9		
新宿区	1		1	8		1
文京	1			1		2
台東	2			3		
墨田区						
江東区	1		1	18		
品川区				5		
目黒区						6
大田区	7			9		
世田谷	5		1	13		1
渋谷区				2		5
中野区	2		1	5		
杉並				6		1
池袋				1		
北区	1	1		3		
荒川区	4			3		2
板橋区			1			
練馬区			1			
足立	3		1	4		1
葛飾区	3			8		
江戸川	3	1		9		2
八王子市	19		2	6		1
町田市	4		3	6		
西多摩	5			3		
南多摩	3			2		
多摩立川	6		2	2		
多摩府中	6		5	16		
多摩小平	3	1	1	4		36
島しょ						

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと	2	
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市	1	
町田市		
西多摩		
南多摩		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	82	3	20	147		58
-------	----	---	----	-----	--	----

東京都合計	3	
-------	---	--

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2012年19週

定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田				0.33	0.67			0.33		
中央区			0.67	3.00				1.00		
みなと	0.17	1.17	1.00	6.00	3.00	1.00		0.67	0.33	
新宿区			2.88	4.38	0.38	0.13		0.25		0.13
文京		1.00	1.00	5.25	1.75	0.25		0.25		
台東	0.25	0.25	1.00	9.25	0.50			1.00		
墨田区			2.80	5.80	0.80			0.80		
江東区	0.33	1.00	1.22	15.11	1.11	0.22	0.67	1.00		
品川区		0.25	1.25	9.38	0.50			0.88		0.13
目黒区		0.40	3.20	2.20						
大田区	0.15	1.38	4.54	12.54	0.62		0.08	1.00	0.08	
世田谷		0.13	3.63	7.56	0.63	0.06	0.38	0.69	0.13	
渋谷区				7.50	2.00			0.25		
中野区			1.29	6.86	0.71		0.14	0.14		
杉並	0.10		2.20	5.70	1.10			0.70		
池袋			0.40	3.40	0.40					
北区			1.57	5.14	0.29			1.29		
荒川区		1.00	2.25	15.75	2.75			1.50		0.25
板橋区		0.20	0.40	3.00	1.10		0.10	0.80		
練馬区		0.69	3.15	5.77	0.85			1.00	0.08	0.08
足立	0.08	0.38	2.15	9.15	2.15	0.08	0.23	0.46		
葛飾区		0.13	1.13	9.75	2.00	0.38	0.13	0.50		
江戸川		1.08	1.42	8.92	0.67	0.25	0.17	0.50		0.08
八王子市	0.09	1.64	6.82	14.36	2.73		0.09	0.64		
町田市		0.13	4.75	13.88	2.00		0.50	1.50		0.13
西多摩		0.88	2.00	5.13	1.00	0.13	0.50	0.25		
南多摩		0.33	3.00	10.89	4.67	0.22	0.11	1.00		
多摩立川	0.07		1.71	7.57	1.29	0.29	0.07	0.93		
多摩府中	0.05	0.19	2.48	7.00	1.38	0.24	0.38	1.00	0.10	0.19
多摩小平	0.43	0.79	3.57	10.00	2.43	0.07	0.07	1.64		
島しょ										

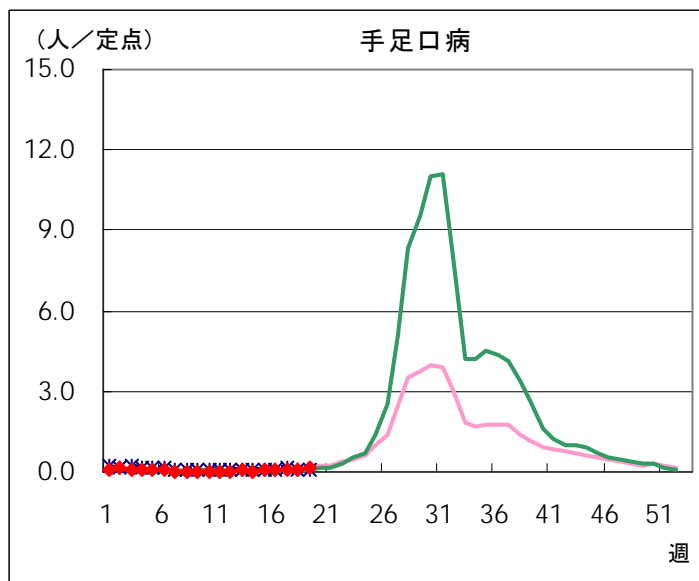
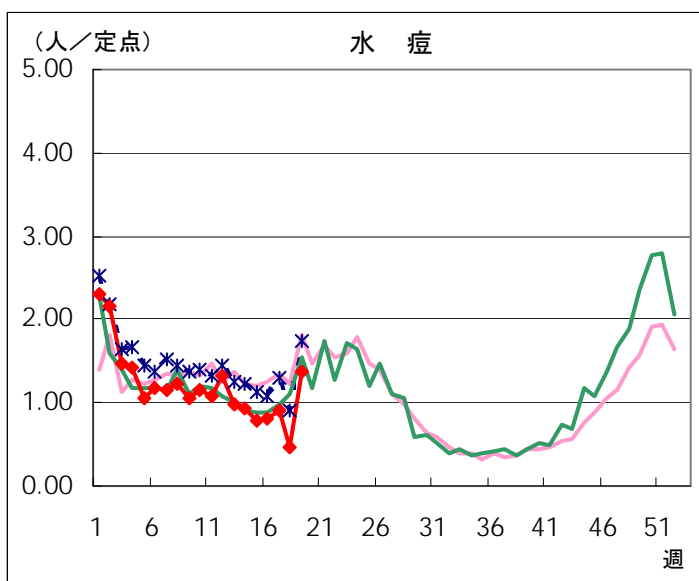
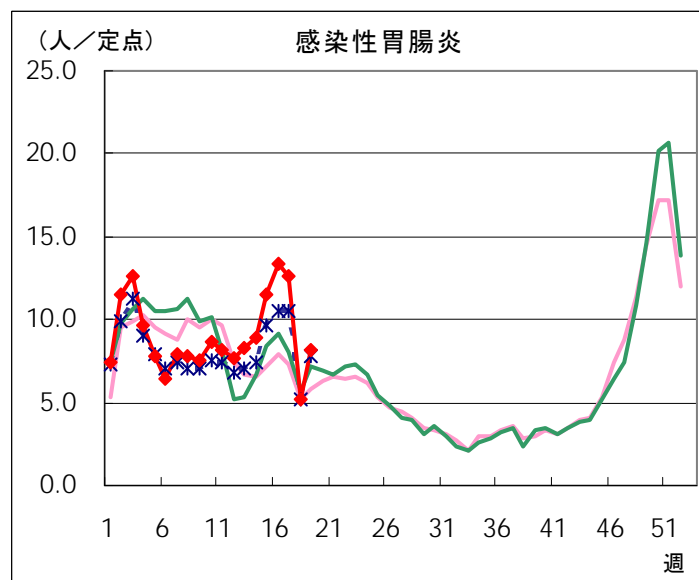
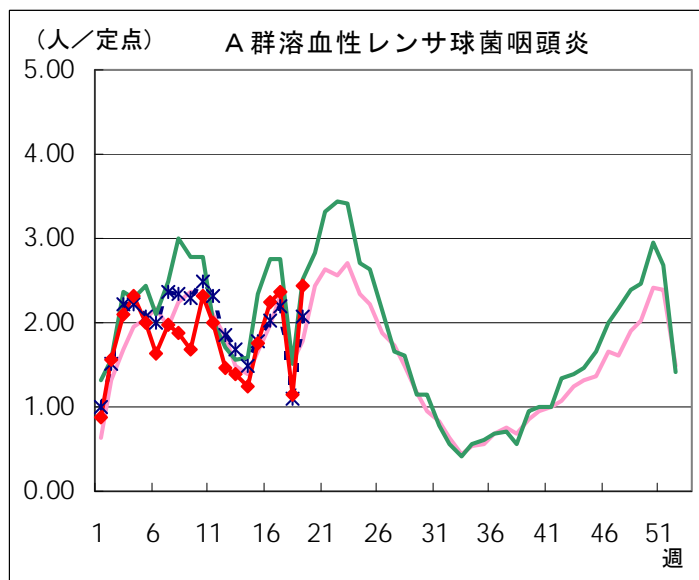
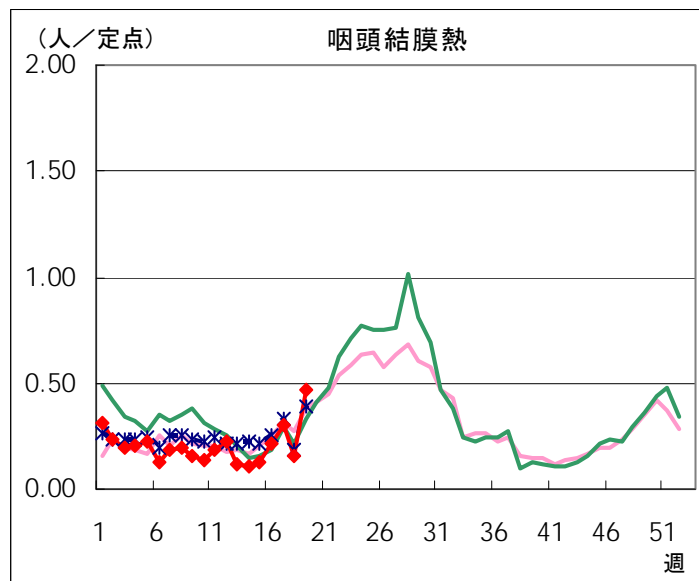
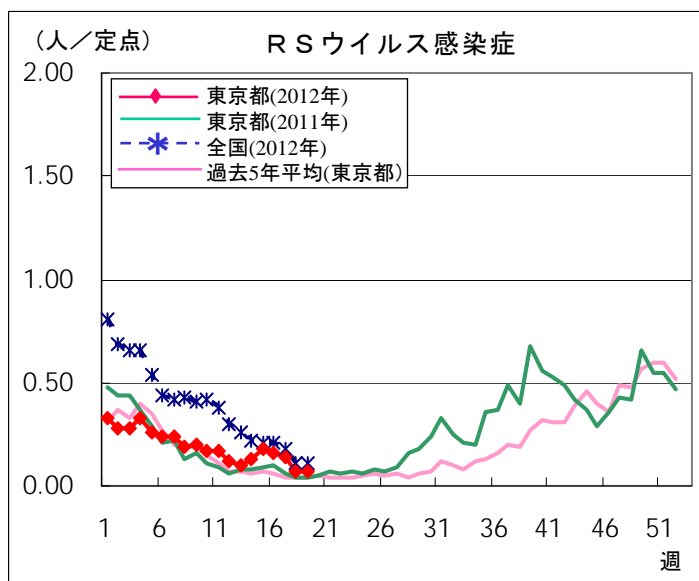
東京都	0.07	0.47	2.44	8.12	1.36	0.12	0.16	0.79	0.03	0.04
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

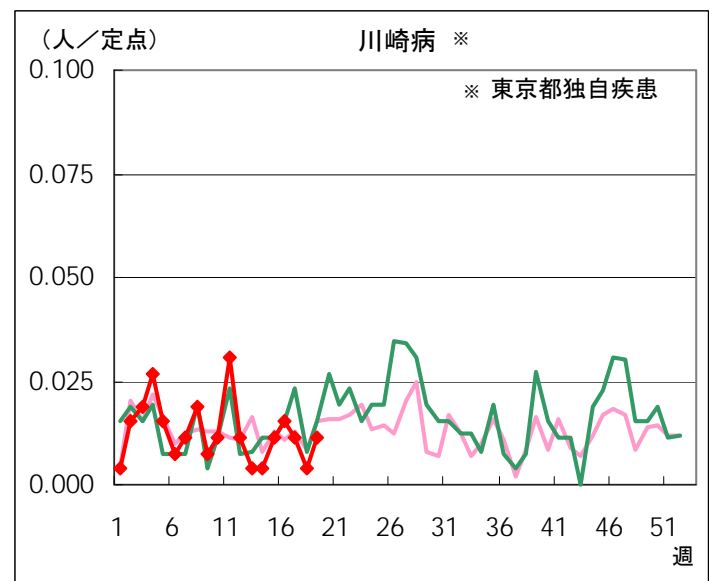
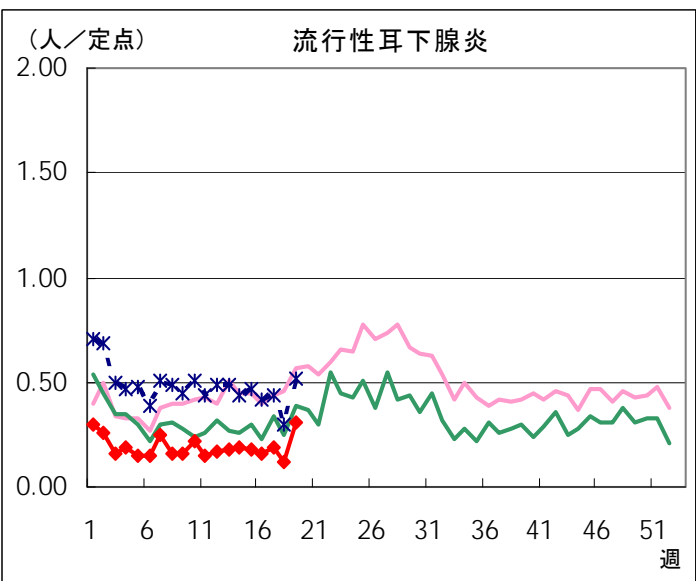
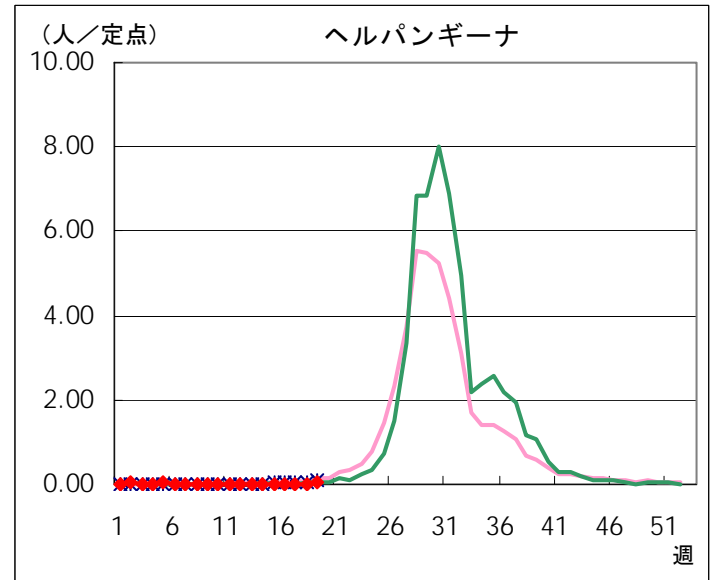
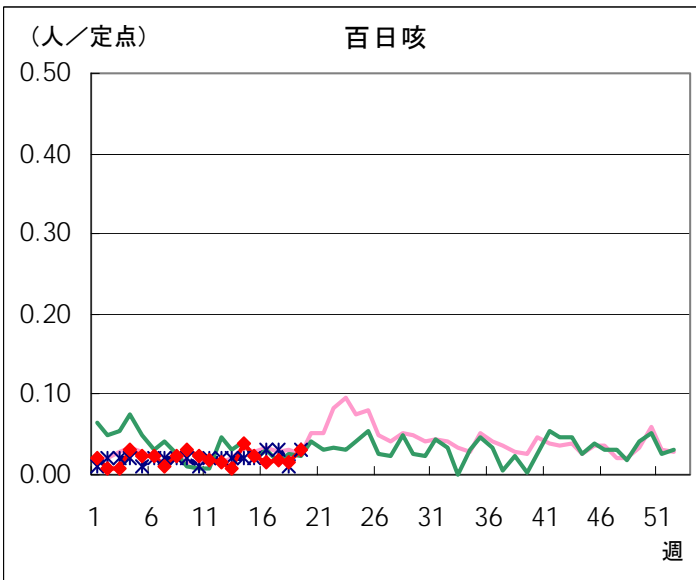
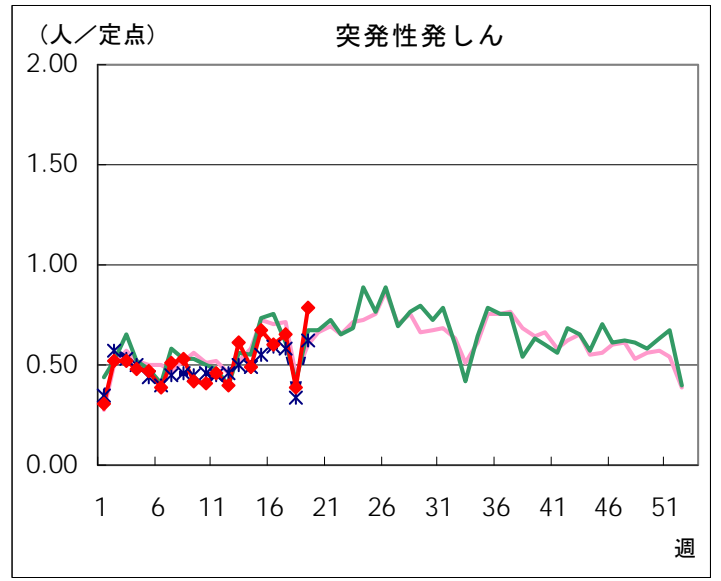
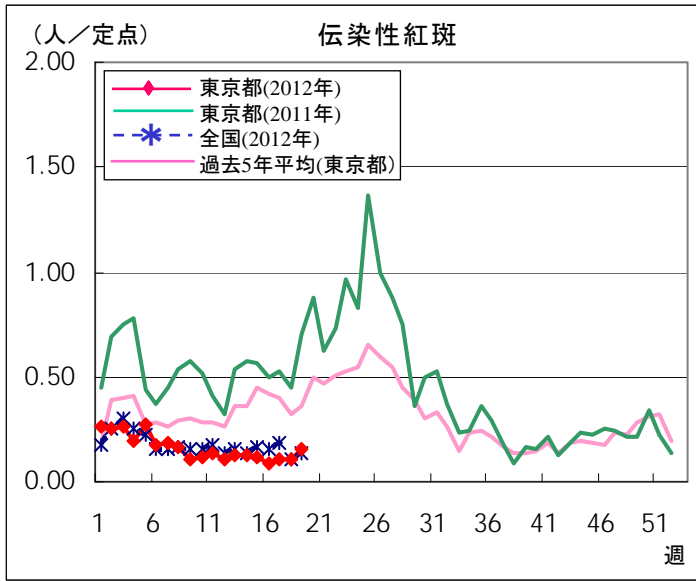
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区	0.67			0.20		
みなと	0.17			1.00		
新宿区	0.13		0.13	0.67		1.00
文京	0.25			0.14		2.00
台東	0.50			0.43		
墨田区						
江東区	0.11		0.11	1.29		
品川区				0.42		
目黒区						6.00
大田区	0.54			0.43		
世田谷	0.31		0.06	0.52		0.50
渋谷区				0.29		5.00
中野区	0.29		0.14	0.45		
杉並				0.38		1.00
池袋				0.13		
北区	0.14	0.14		0.27		
荒川区	1.00			0.43		2.00
板橋区			0.10			
練馬区			0.08			
足立	0.23		0.08	0.20		0.50
葛飾区	0.38			0.62		
江戸川	0.25	0.08		0.47		1.00
八王子市	1.73		0.18	0.33		0.50
町田市	0.50		0.38	0.46		
西多摩	0.63			0.21		
南多摩	0.33			0.14		
多摩立川	0.43		0.14	0.10		
多摩府中	0.29		0.24	0.48		
多摩小平	0.21	0.07	0.07	0.18		18.00
島しょ						

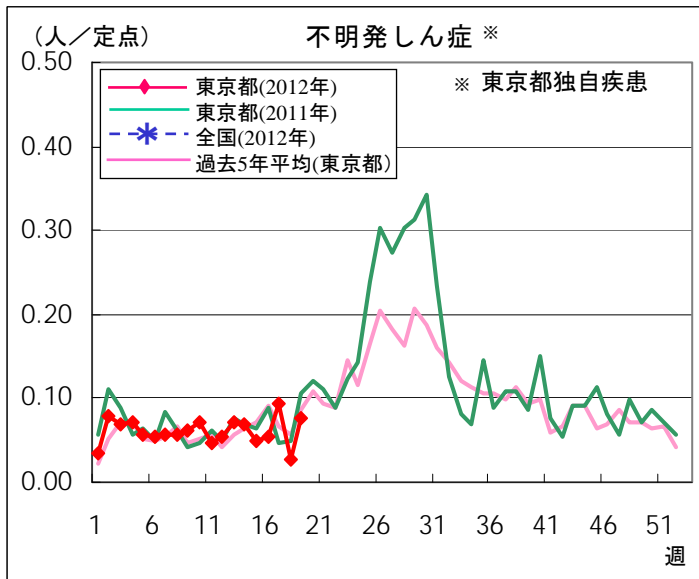
東京都	0.31	0.01	0.08	0.35		1.53
-----	------	------	------	------	--	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2012年19週現在

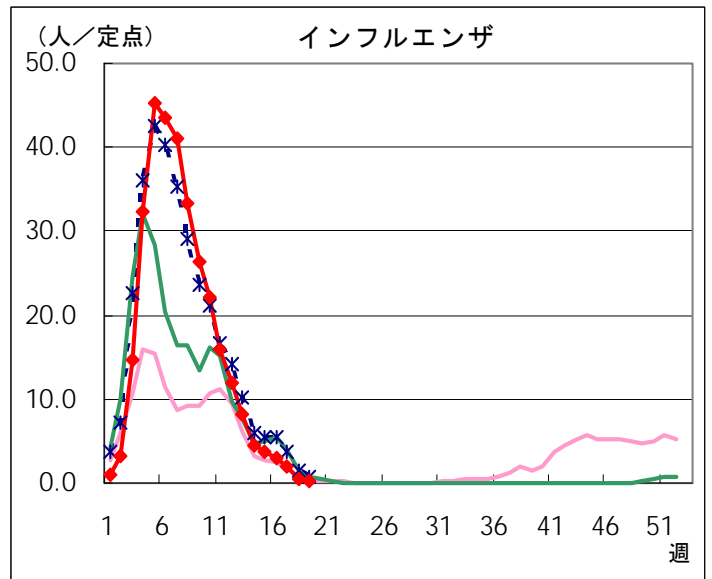
◆ 小児科定点



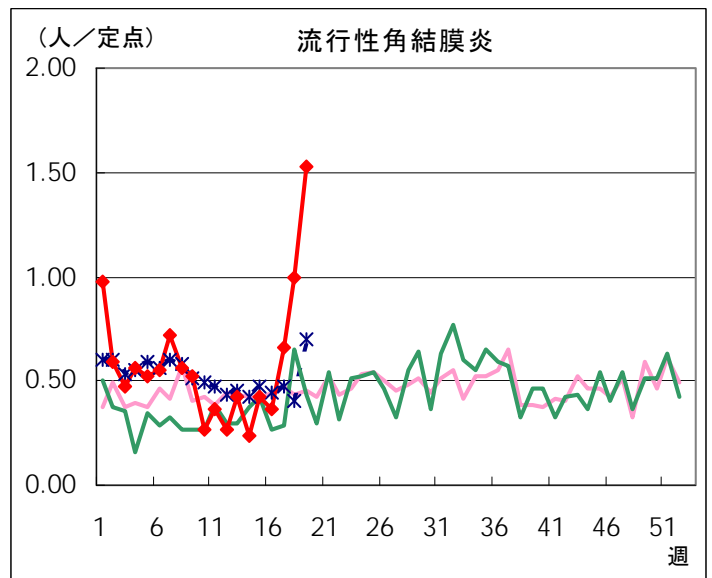
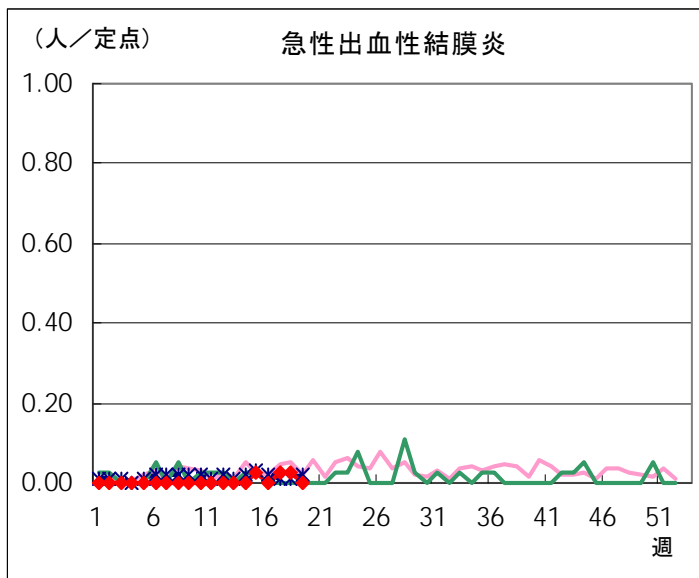




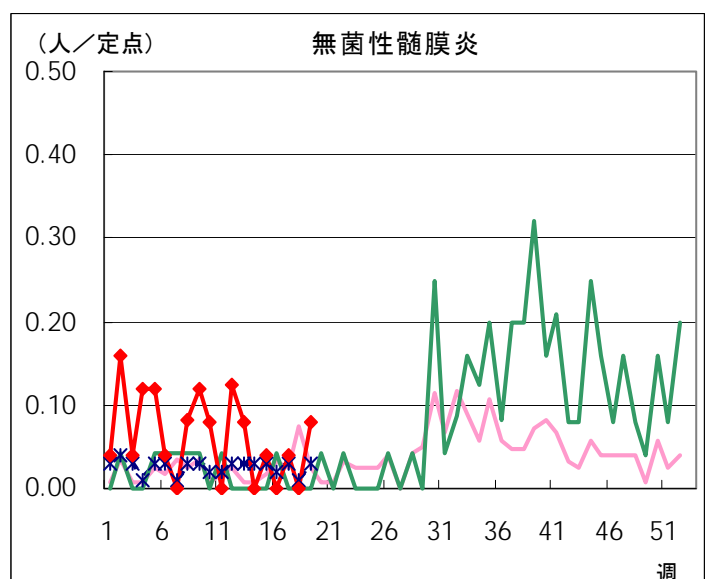
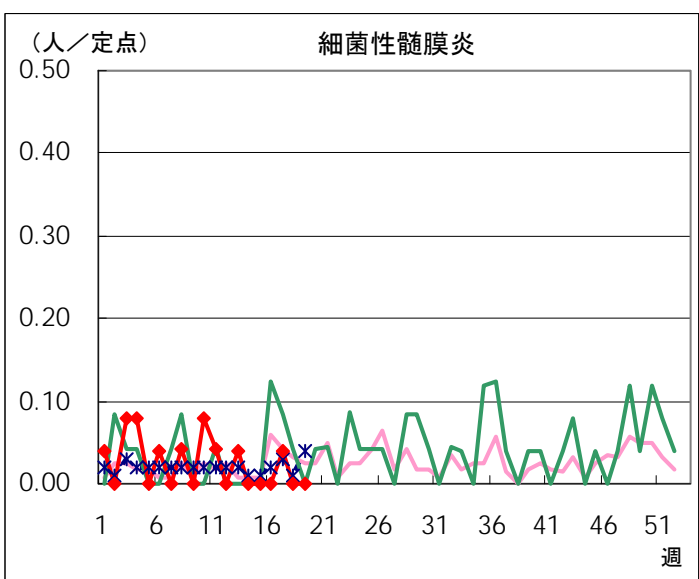
◆ インフルエンザ定点

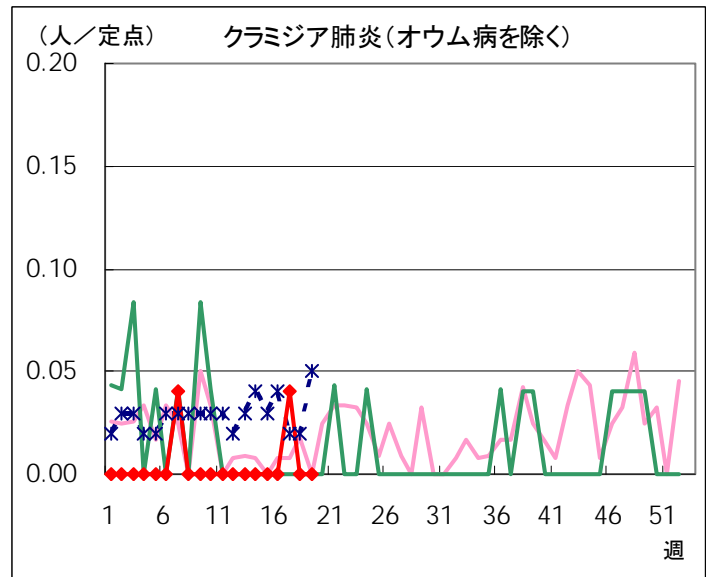
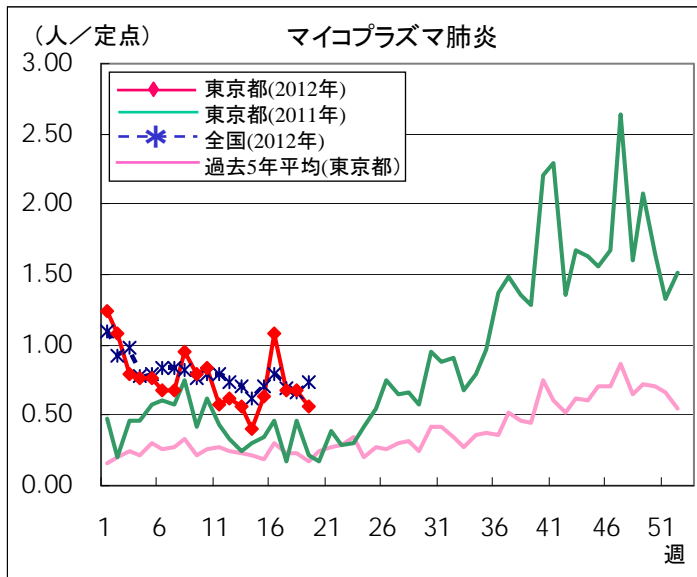


◆ 眼科定点

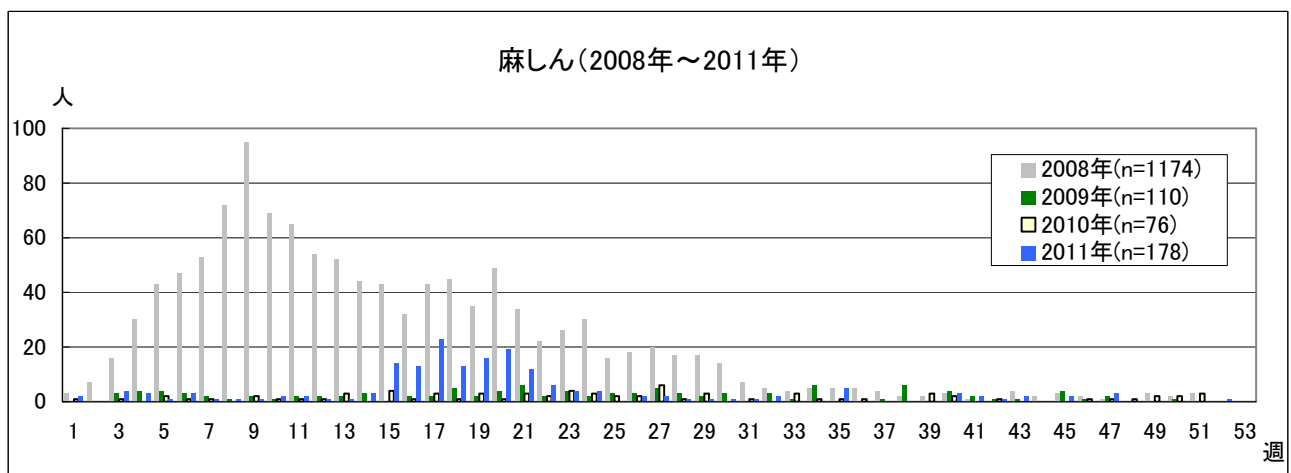
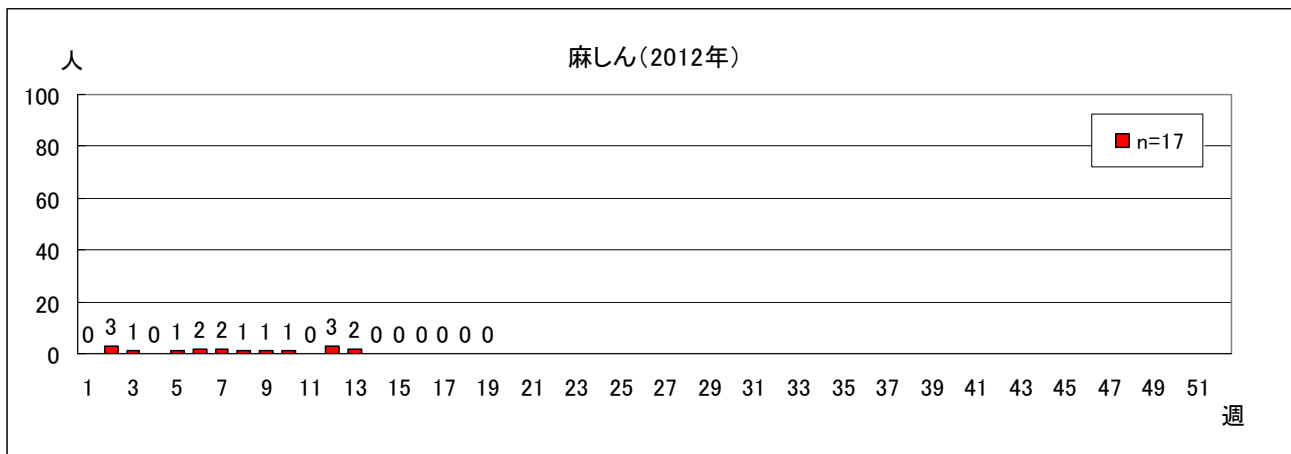


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2012年19週現在



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/21	不明発しん症	8M	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
4/25	上気道炎、中耳炎	10M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/23	急性胃腸炎	11M	直腸拭い液	A群ロタウイルス	抗原
4/26	不明発しん症	11M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 インフルエンザウイルス B型 ※	遺伝子
4/20	感染性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルスGⅡ	
4/26	気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、ライノウイルス	抗原
4/27	けいれん	1	糞便	A群ロタウイルス	
			咽頭拭い液	アデノウイルス	
4/24	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	遺伝子
4/23	不明発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/28	発しん疑い	1	鼻汁	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/23	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/24	肺炎	3	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
4/20	感染性胃腸炎	4	直腸拭い液	A群ロタウイルス	抗原
4/25	急性気管支炎	4	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	遺伝子
4/27	髄膜炎	4	髄液	ムンプスウイルス	
4/24	突発性発しん	5	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
4/23	急性胃腸炎	6	直腸拭い液	サポウイルス	
4/26	急性胃腸炎	6	直腸拭い液	サポウイルス	
4/21	インフルエンザ	7	鼻汁	ライノウイルス	
4/23	インフルエンザ	38	咽頭拭い液	ライノウイルス	

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

※1 「18週」は全て0件。

※2 遅れ報告「17週」のAH3型1件、B型4件を含む。

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
18週※1				
2011-2012年 シーズン累計**	1		218※2	131※2

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2011-2012シーズンの開始は第36週(2011年9月5日～)

◇定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関からいただきました、インフルエンザ迅速診断結果とコメントを下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果			医療* 機関数	備 考
	A型	B型	記載なし		
みなと		3		2	
新宿区		6		2	
台東		1		1	・20代の方はインフルエンザB型です。
江東区	11	7		4	
品川区		5		3	
世田谷		3		1	
中野区	1	4		4	
池袋		1		1	
荒川区	1	2		1	
八王子市		3		2	
多摩府中		1		1	
多摩小平	1	2		3	
総計	14	38		25	

* 迅速診断結果をご報告いただいた医療機関数

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2012年							
		11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週
ウイルス	アデノウイルス	3	1		1	3	1	2	1
	ライノウイルス		2	2	6	3	5	4	
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス						1	1	
	単純ヘルペスウイルス				1	3			
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	5		3	1		3	6	2
	EBウイルス	1			1	1	2		
	サイトメガロウイルス			1					
	ムンプスウイルス								1
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19	3							
	RSウイルス			1	1	1			
	ノロウイルス	3		3	1	1		1	
	ロタウイルス	2		1	2	1	2	2	1
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	5	1		7	4	3	1		
インフルエンザウイルスB	16	10	3	6	7	9	4		
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)									
その他のウイルス		1	2	1	5		3	1	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌		4	1					
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌	3	1	1					
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2012年11週～2012年18週

臨床診断名 検出病原体		インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数		84	30	27	47	16	2	2	2		1	2	26	3		3		57	
ウイルス	アデノウイルス	3	3	1	1								2					2	
	ライノウイルス	3	2	7							1		7					2	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群																		
	コクサッキーウイルスB群																		
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71																		
	その他のエンテロウイルス												2						
	単純ヘルペスウイルス		1										1					2	
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																		
	ヘルペスウイルス6/7	1	1	2									8			1		7	
	EBウイルス		1										3	1					
	サイトメガロウイルス																	1	
	ムンプスウイルス					1													
	麻疹しんウイルス																		
	風しんウイルス																		
	パルボウイルスB19												1	2					
	RSウイルス			3															
	ノロウイルス				9														
	ロタウイルス				10													1	
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	21																		
インフルエンザウイルスB	46	1	5									1	1				1		
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス(抗体を含む)																			
その他のウイルス		1	7	3														2	
細菌	カンピロバクター																		
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌		4					1											
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌		1						2									2	
その他の病原体																			

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2012年4月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	99	1.83	54	55
		女	67	1.24		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	65	1.20		
		女	29	0.54		
	尖圭コンジローマ	男	50	0.93		
		女	23	0.43		
	淋菌感染症	男	79	1.46		
		女	9	0.17		
	膺トリコモナス症 *1	男				
		女	11	0.20		
梅毒様疾患	男	11	0.20			
	女	1	0.02			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	49	1.96	25	25
		女	26	1.04		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	18	0.72		
		女	11	0.44		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	2	0.08		
		女	1	0.04		
	薬剤耐性 アシネトバクター感染症 *2	男				
		女				

2012/5/16

*1 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

*2 2011年2月1日より新たに指定された。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2012年4月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	1		1	2		
20～24歳	17	4	4	15		1
25～29歳	18	6	8	11		3
30～34歳	17	15	6	14		4
35～39歳	15	10	6	19		1
40～44歳	9	9	9	4		
45～49歳	10	7	10	8		2
50～54歳	8	6	4	4		
55～59歳	2	3	2	1		
60～64歳	1	3		1		
65～69歳	1	1				
70歳～		1				
合計	99	65	50	79		11
先月数	97	71	49	76		8
増減数	2	-6	1	3		3

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	5	2	2		1	
20～24歳	22	7	9	2	1	
25～29歳	21	8	6	5	1	
30～34歳	9	4	4	1		1
35～39歳	2	1	1	1	2	
40～44歳	5	2	1		2	
45～49歳	3	2				
50～54歳		1			2	
55～59歳		1			1	
60～64歳					1	
65～69歳						
70歳～		1				
合計	67	29	23	9	11	1
先月数	86	43	21	11	12	2
増減数	-19	-14	2	-2	-1	-1

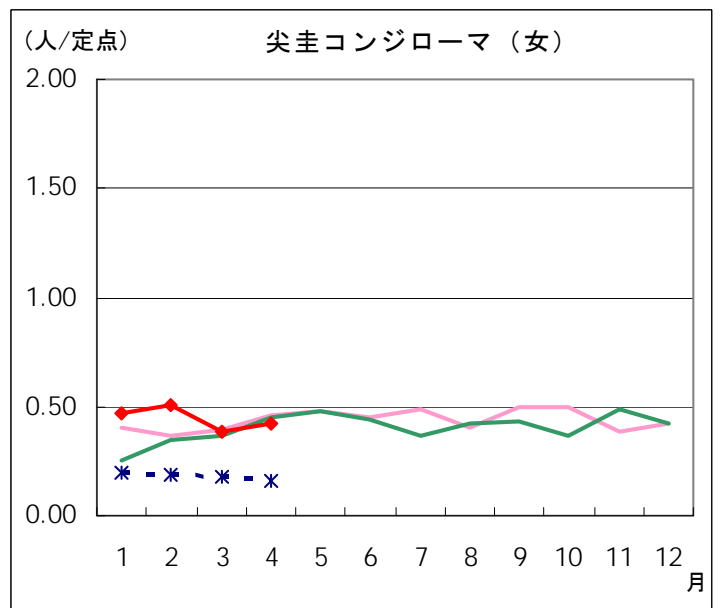
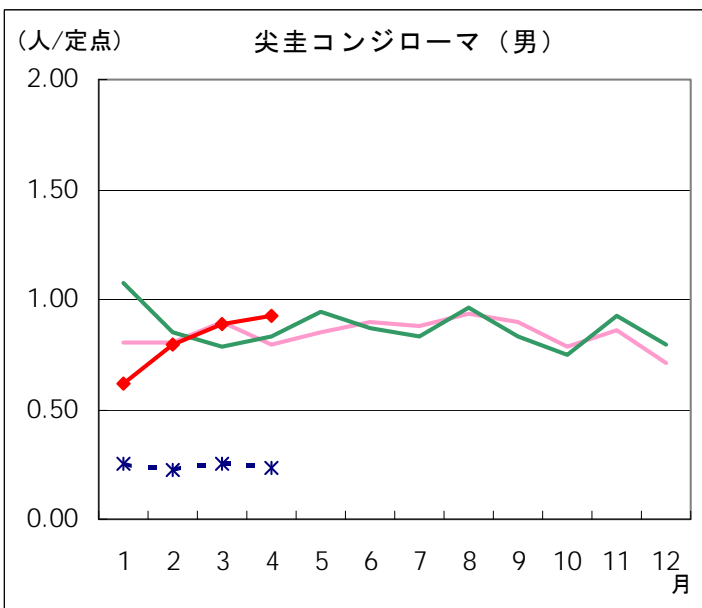
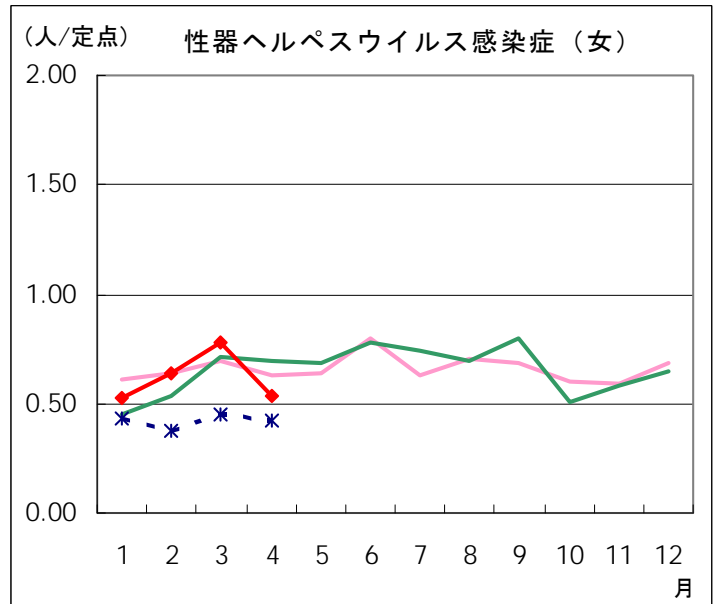
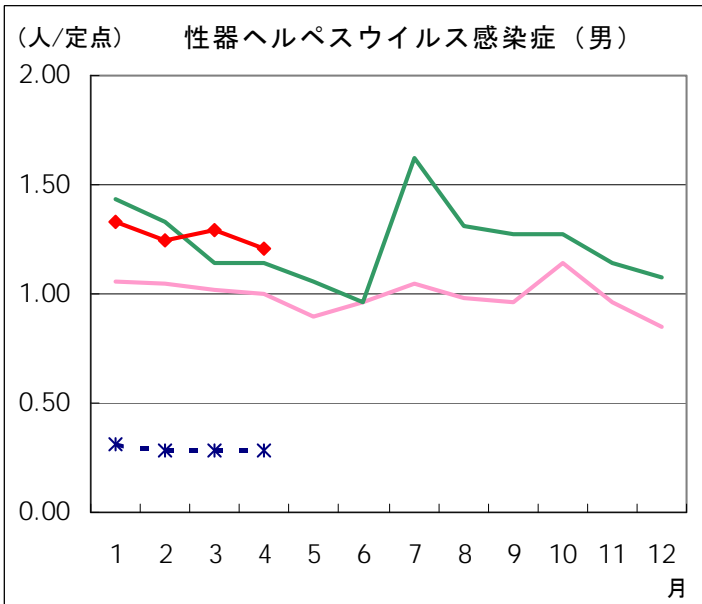
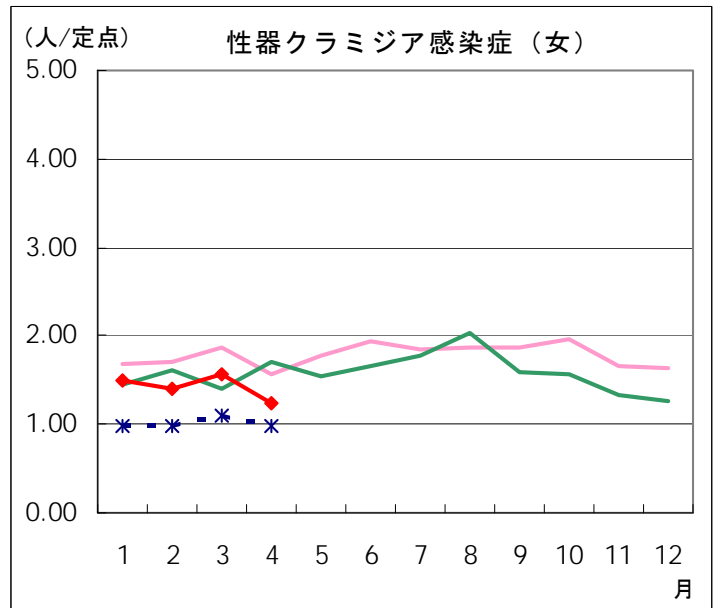
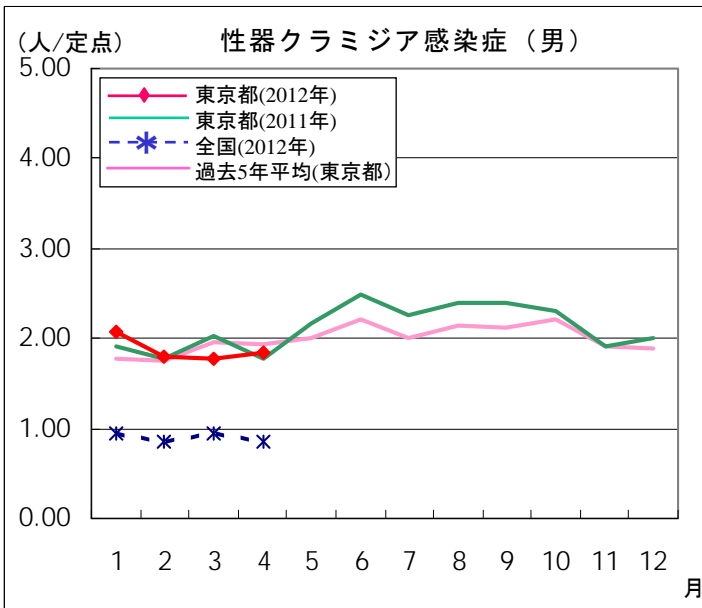
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2012年4月

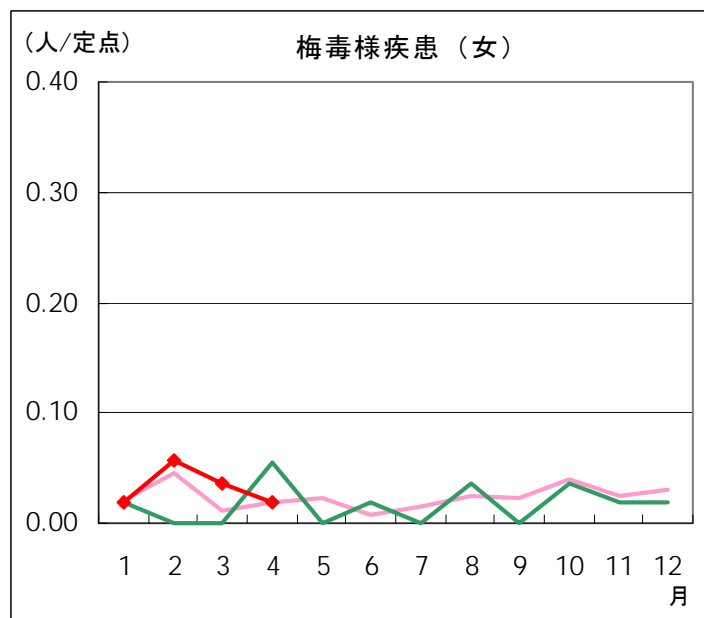
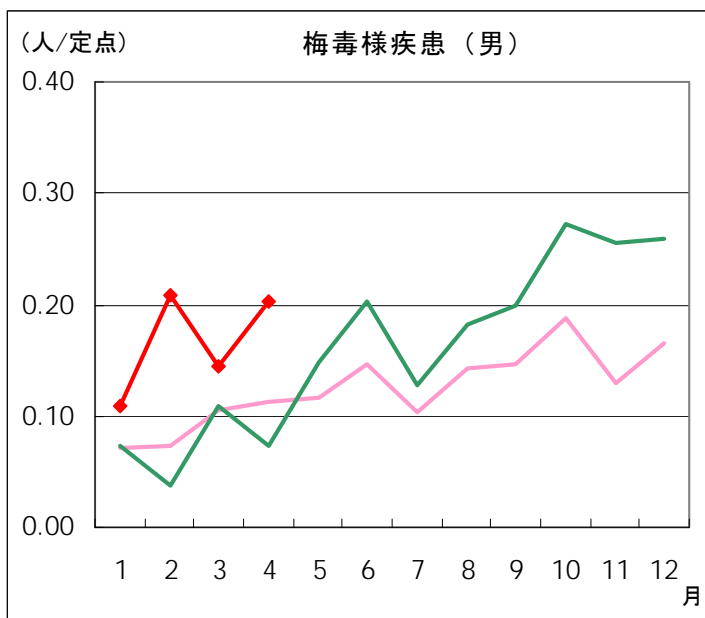
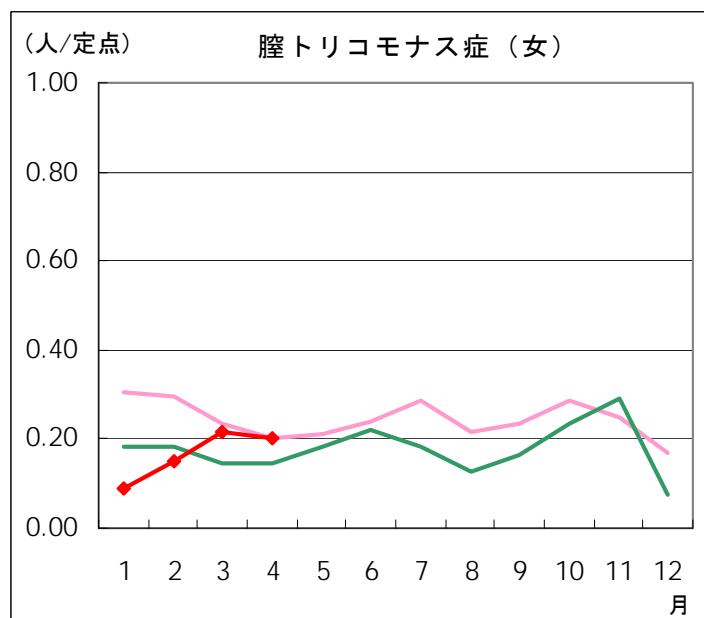
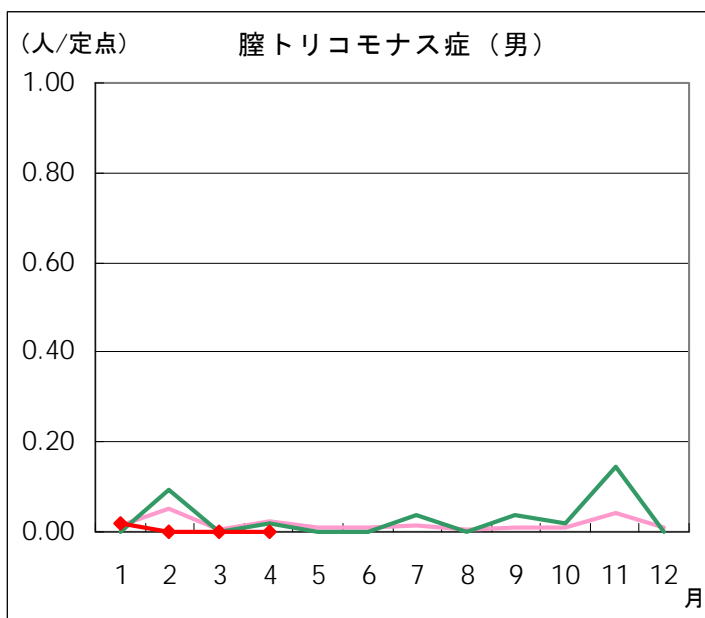
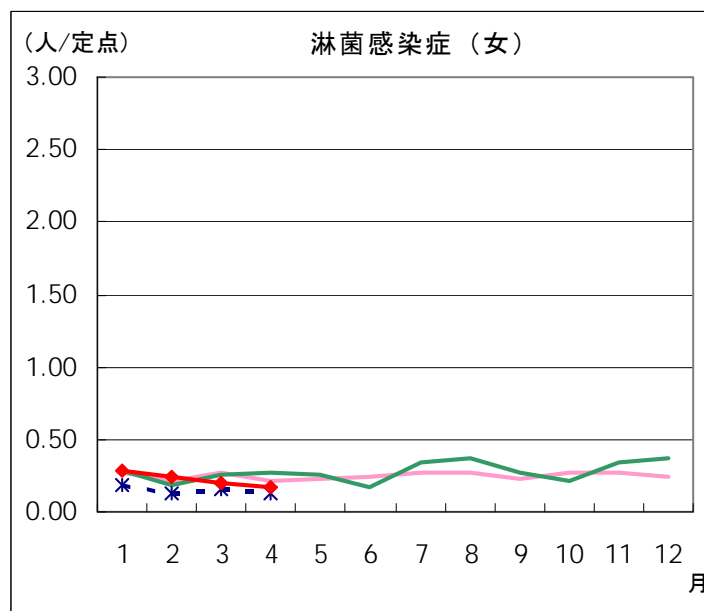
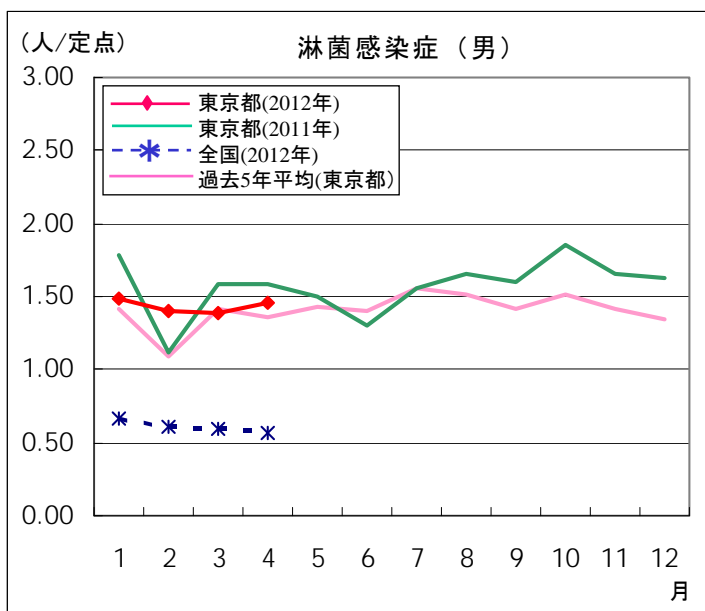
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	6		5	17		
中央区	3	9	2		3		
みなと	2	6	23	5	4		
新宿区	7	26	19	23	27		7
文京	1	2	2	2			2
台東	2						
墨田区	2	1	1	1			
江東区	2	12	5	4	9		
品川区	1	3	5	5	4		
大田区	2	2			1		
渋谷区	5	10	2	1	4		1
中野区	2	3	3		2		
杉並	2	2			1		
池袋	3	10	2	2	4		1
北区	1	2		1			
荒川区	1						
板橋区	2	1			1		
足立	1	1		1			
江戸川	2	2	1		2		
八王子市	4						
町田市	1						
多摩立川	2	1					
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	54	99	65	50	79		11
定点当たり		1.83	1.20	0.93	1.46		0.20

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2						
中央区	3	1					
みなと	2	6	5	5	1	1	
新宿区	7	7	3	7	1	1	1
文京	1						
台東	2		1			1	
墨田区	2			1			
江東区	2						
品川区	1						
大田区	2	6		1			
渋谷区	5	6	10	3	1	2	
中野区	2	1		1		3	
杉並	2						
池袋	3	5	2	4	1	1	
北区	1			1			
荒川区	1						
板橋区	2	7	2		1		
足立	1						
江戸川	2	8				2	
八王子市	4	5	1		1		
町田市	1	3	4				
多摩立川	2	12	1		3		
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	54	67	29	23	9	11	1
定点当たり		1.24	0.54	0.43	0.17	0.20	0.02

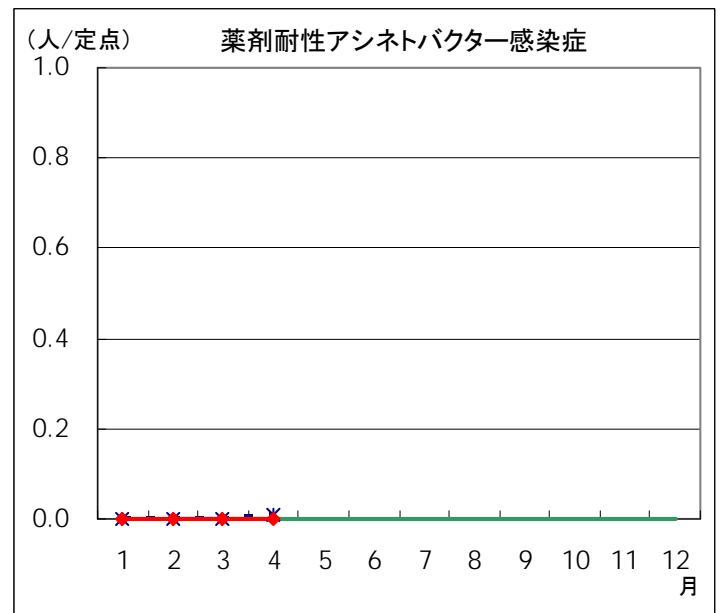
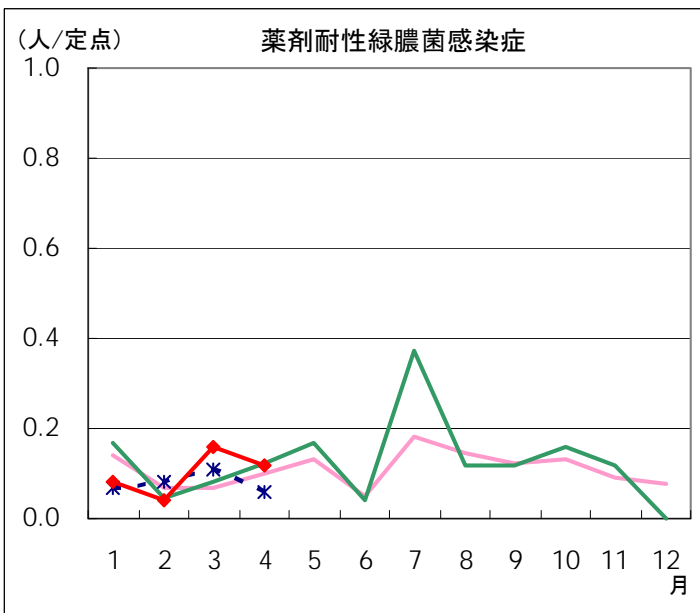
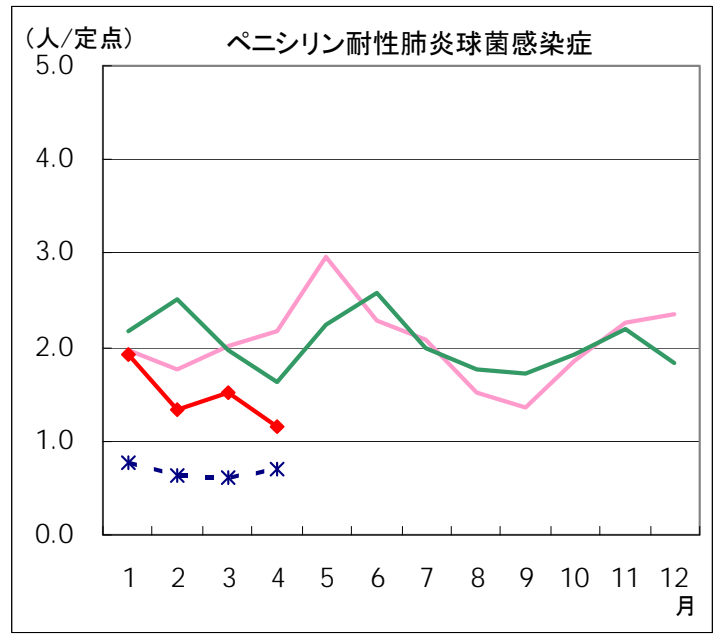
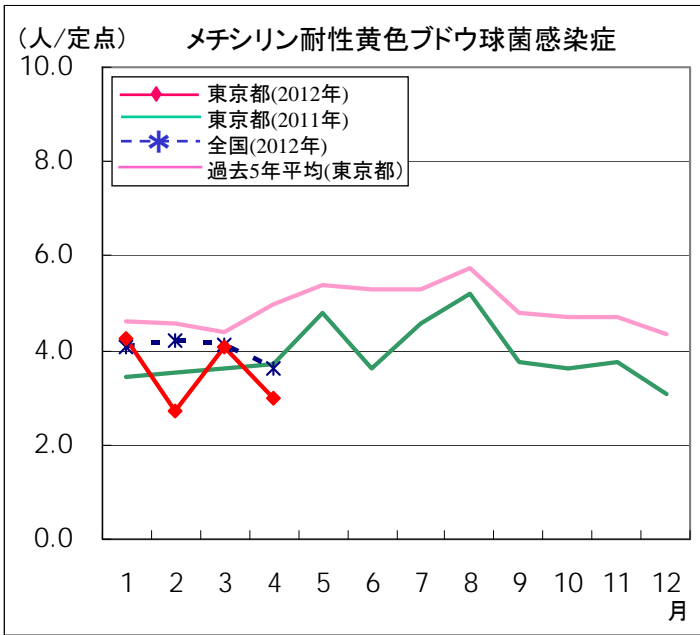
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2012年4月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
4/9	ヒトパピローマウイルス 感染症疑い	20	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	遺伝子
					ヒトパピローマウイルス 56型	
4/24	尿道炎	23	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	髄膜炎菌	分離同定
4/3	尿道炎	24	男	尿	淋菌	遺伝子
4/10	尿道炎	24	男	尿	淋菌	
4/11	尿道炎	25	男	尿	淋菌	分離同定
4/24	尿道炎	26	男	尿	淋菌	遺伝子
4/24	陰茎ヘルペス	27	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 2型	
4/18	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	
4/24	陰茎コンジローマ	28	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/19	尿道炎	29	男	尿	淋菌	
4/11	外陰部ヘルペス疑い	31	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	分離同定
4/11	尿道炎	31	男	尿	淋菌	
4/10	陰茎ヘルペス	33	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子
4/11	尿道炎	33	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	分離同定
4/4	陰茎コンジローマ	35	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	遺伝子
4/24	尿道炎	38	男	尿	クラミジア、淋菌	
4/17	尿道炎	39	男	尿	クラミジア	
4/5	外陰部ヘルペス	42	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 2型	
4/3	尿道炎	46	男	尿	クラミジア	
4/24	尿道炎	47	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	遺伝子
4/26	陰茎コンジローマ疑い	48	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/24	陰茎コンジローマ	52	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
4/5	陰茎ヘルペス疑い	54	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	遺伝子

<感染症豆知識>

手足口病

手足口病は、四肢末端と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とする急性ウイルス性疾患で、毎年、乳幼児を中心として夏季に流行する。主な原因はコクサッキーウイルス A16 型 (CA16) やエンテロウイルス 71 型 (EV71) で、糞口感染や飛沫、水疱内容物からの接触感染を起こす。平成 23 年は感染症法施行以来最大の流行となったが、例年とは異なりヘルパンギーナの原因ウイルスとして知られる CA6 が主な原因であった。CA6 による手足口病は、発疹が大きく、臀部や体幹など広範囲に及び、手掌や足底部の皮膚剥離や爪甲脱落症を起こすなど従来型とは臨床像が大きく異なる場合がある。このうち爪甲脱落症は、手足口病の回復数週間後に見られる爪の剥離、脱落で、平成 12 年に米国で初めて報告された。ウイルス感染による爪母基の分裂停止が原因と考えられており、国内でも平成 21 年、愛媛・大分からの報告を端緒として、近年報告が相次いでいる。

一方、EV71 ではまれに乳幼児で無菌性髄膜炎、脳炎、急性弛緩性麻痺など重篤な中枢神経系合併症を起こすことが知られている。平成 10 年以降は東アジアを中心に流行が続き、流行国では年間数十人規模の死亡者が報告されている。特効薬はないため、海外を中心に EV71 ワクチンの開発が進められているものの、実用化にはまだ時間を要するといわれている。わが国では散发例の報告はあるものの、過去 10 年間、EV71 による大規模な流行はなく、今後の動向に注意が必要である。このように最近は手足口病であっても、これまでとは臨床像や重篤度が大きく異なる症例も報告されているため、定点医療機関からの患者発生動向やウイルスの分離状況にも留意した診療が望まれる。

(文責 東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長 吉田道彦)